

3.2 質問紙調査

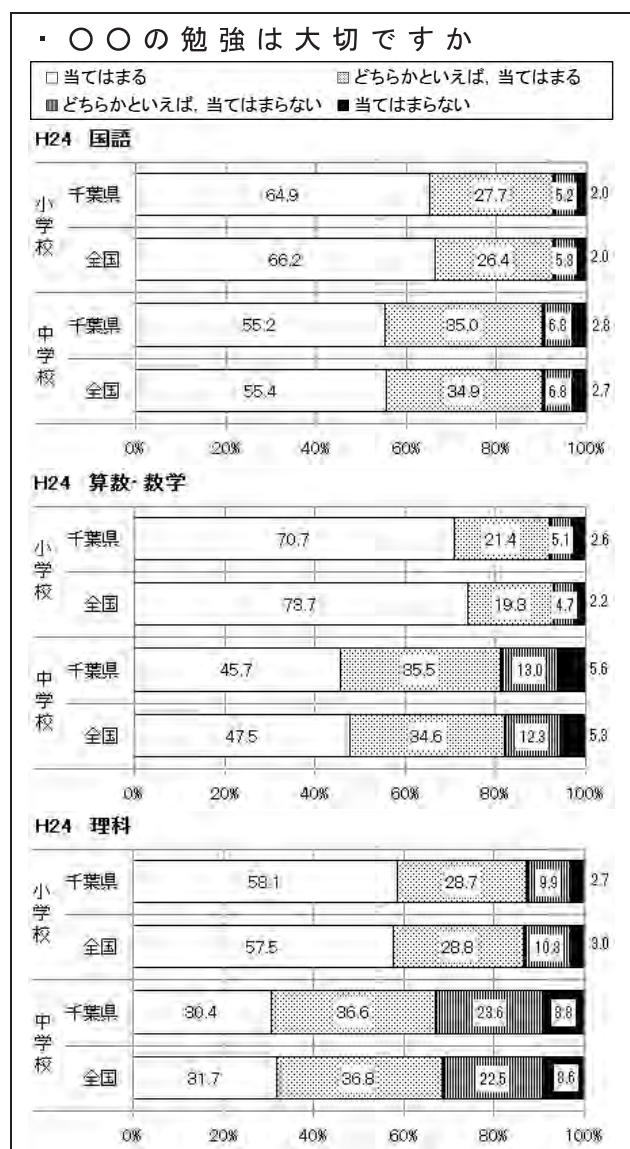
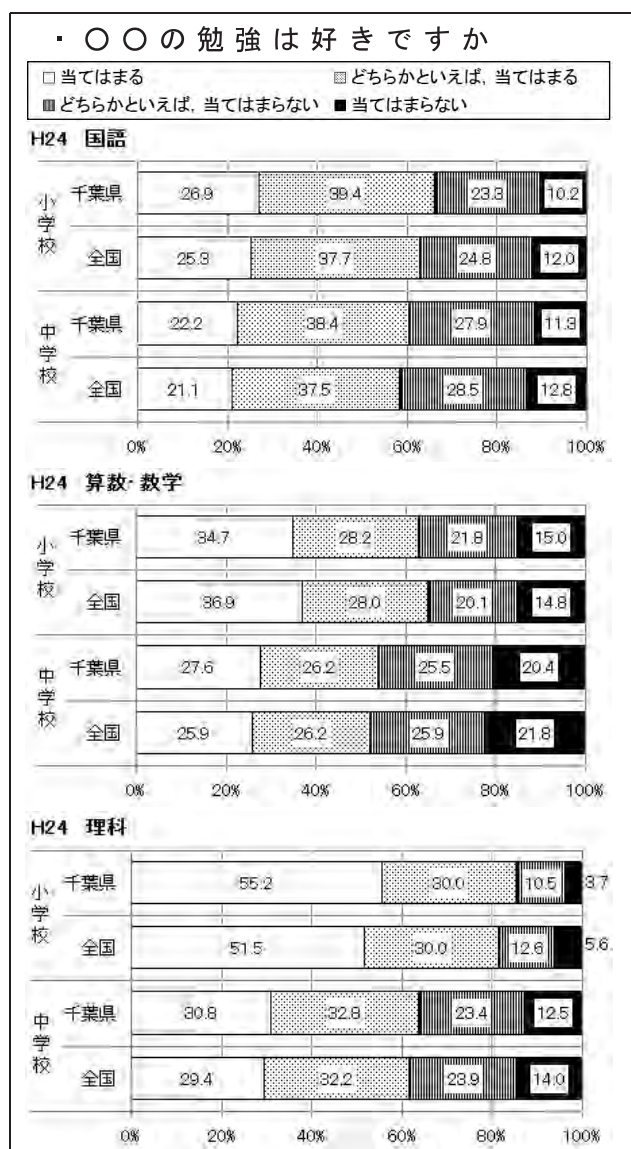
3.2.1 児童生徒質問紙

平成24年度の小学校・中学校の千葉県と全国の回答集計を中心に、質問によってはクロス集計(質問の回答と教科に関する平均正答率の関係 <千葉県>)や経年変化(平成20, 21, 22, 24年度)を活用し分析した。 ※グラフの数値は%

学習状況に関すること

【学習に対する関心・意欲・態度(新規項目の理科を中心に分析)】

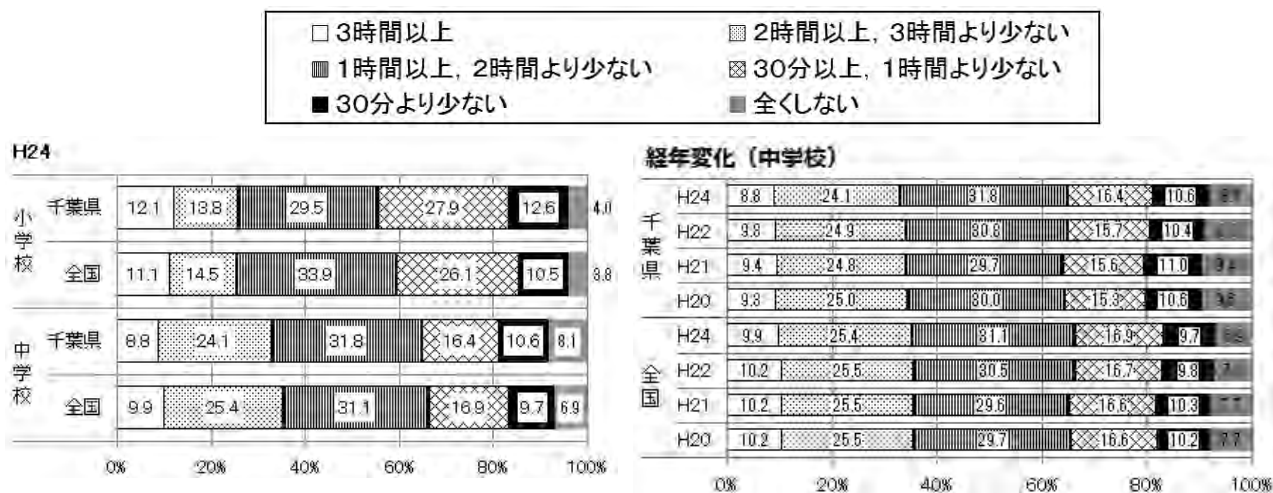
- 「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答をしている児童の割合(85%)は、国語(66%)・算数(63%)と比べて高い。同様に、生徒の割合(64%)も国語(61%)・数学(54%)と比べて高い。
- 「理科の勉強は大切ですか」に対して、肯定的な回答をしている児童の割合(87%)は、国語(93%)・算数(92%)と比べてやや低い。同様に、生徒の割合(67%)も国語(90%)・数学(81%)と比べて低い。



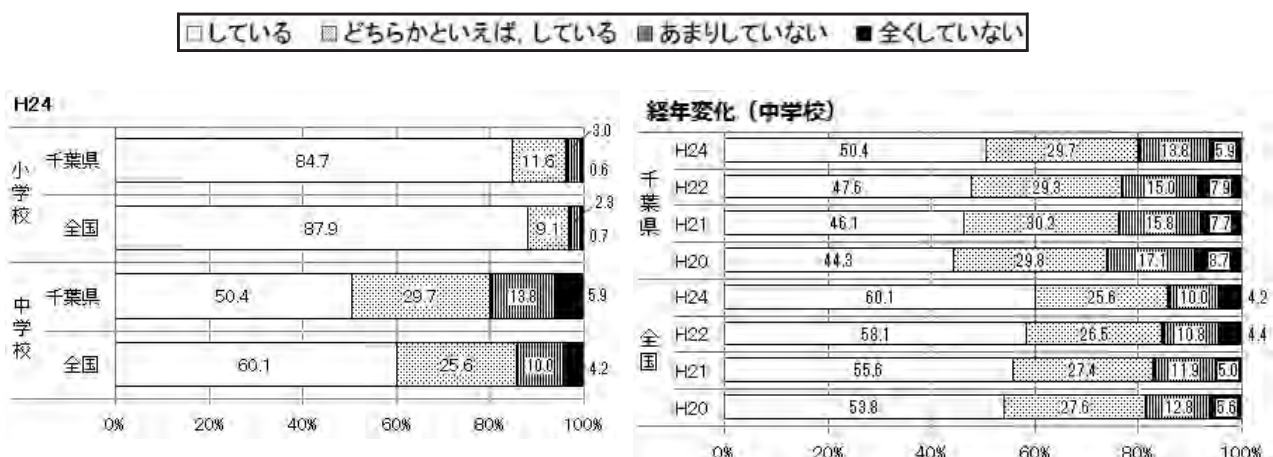
【家庭学習】

- 1日当たり1時間以上学習する児童生徒の割合は全国と比べて低い。また、中学校においては、2時間以上学習する生徒の割合に、若干の減少傾向がうかがえる。
- 「家で学校の宿題をしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合は全国と同程度である。肯定的な回答をした生徒の割合は全国と比べると低いですが、経年変化をみると、全国と同様に増加傾向にある。

- ・ 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾や家庭教師含む)



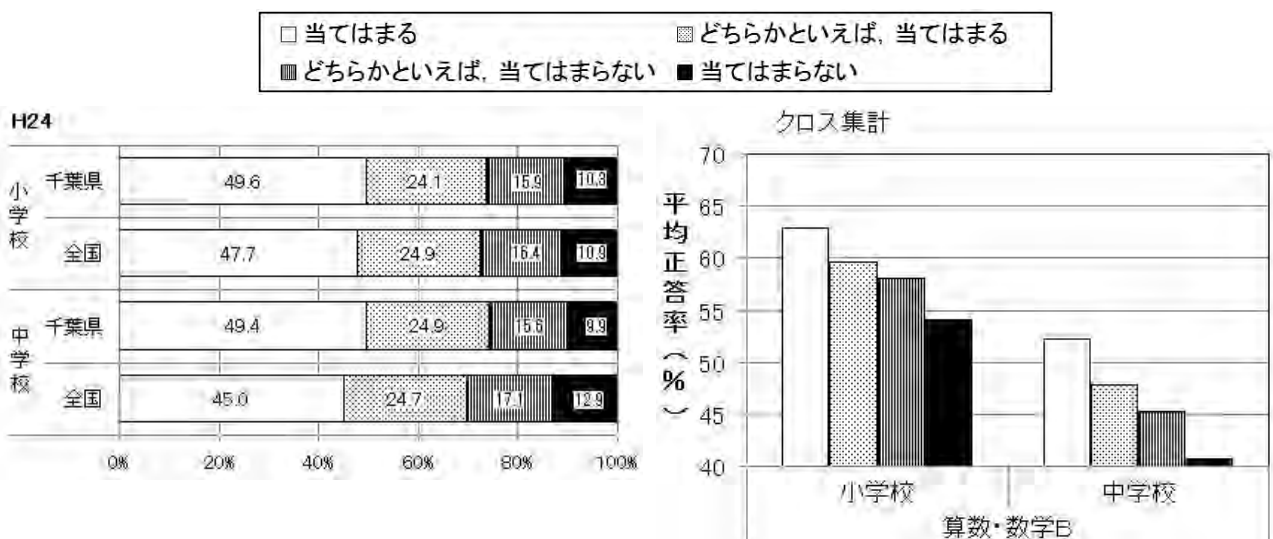
- ・ 家で、学校の宿題をしていますか



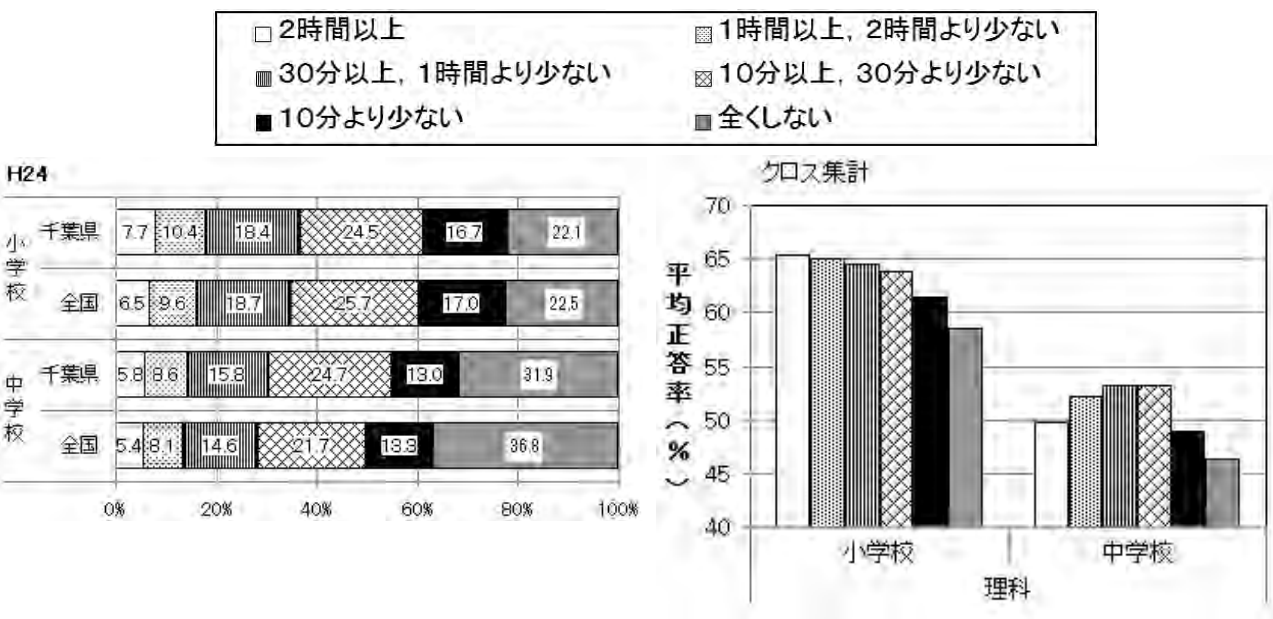
【読書】

- 「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、これまでと同様に全国と比べて高い。また、読書好きな児童生徒ほど国語、算数・数学、理科の正答率が高い傾向が見られる。
- 「普段の日に30分以上読書をする」という児童生徒の割合は、これまでと同様に全国と比べて高い。また、ほとんど読書をしない（10分より少ない）児童生徒は正答率が低い傾向が見られる。

・読書は好きですか



- ・家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



生活習慣に関すること

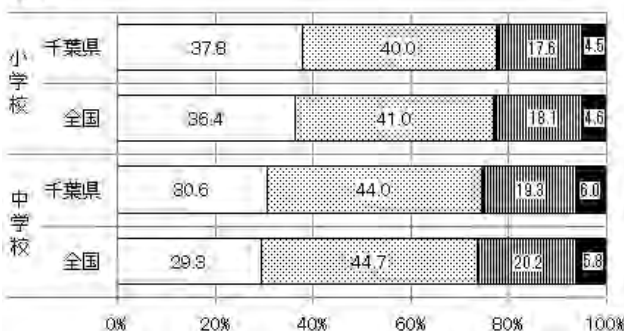
【基本的な生活習慣】

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国と同程度である。また、肯定的な回答をした児童生徒の方が正答率が高い。
- 「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をした児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。
- 早寝・早起きの児童生徒の割合は、全国と比べて高い。さらに、その傾向は強まっている。

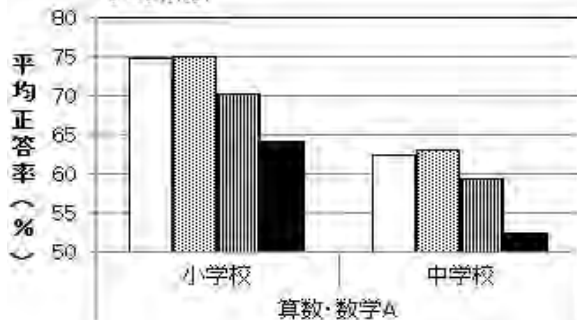
・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

□している □どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない

H24



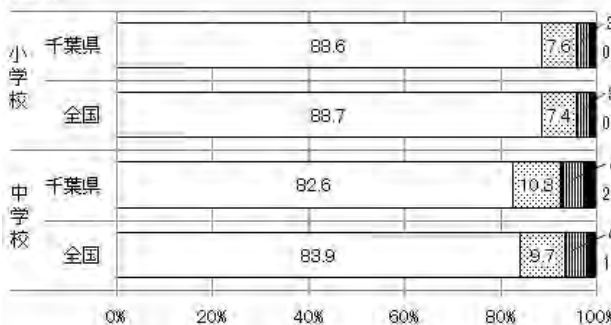
クロス集計



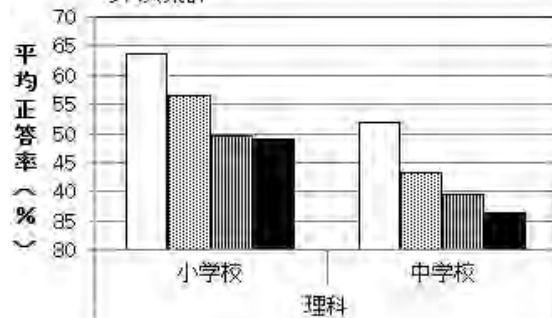
・朝食を毎日食べていますか

□している □どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない

H24



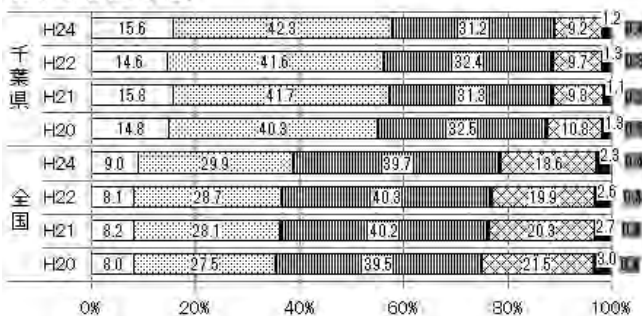
クロス集計



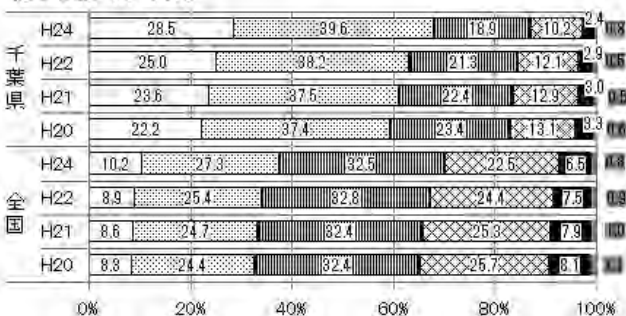
・普段（月～金曜日）、何時ごろ起きますか

□午前6時より前 □午前6時以降、午前6時30分より前 ■午前6時30分以降、午前7時より前
 □午前7時以降、午前7時30分より前 ■午前7時30分以降、午前8時より前 ■午前8時以降

経年変化（小学校）



経年変化（中学校）

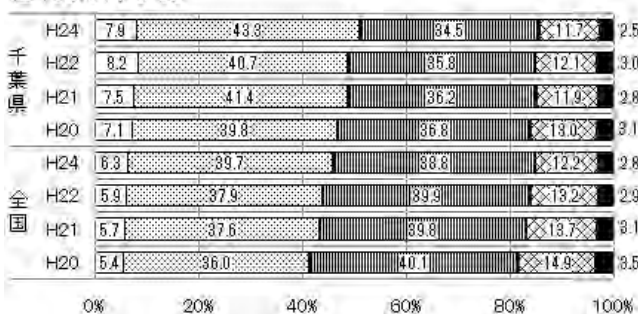


・普段（月～金曜日）、何時ごろ寝ますか

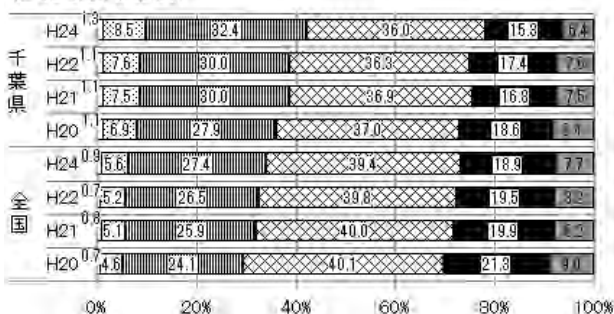
※小学校は「午前0時以降」までの選択

□午後9時より前 □午後9時以降、午後10時より前 □午後10時以降、午後11時より前
 □午後11時以降、午前0時より前 □午前0時以降、午前1時より前 □午前1時以降

経年変化(小学校)



経年変化(中学校)

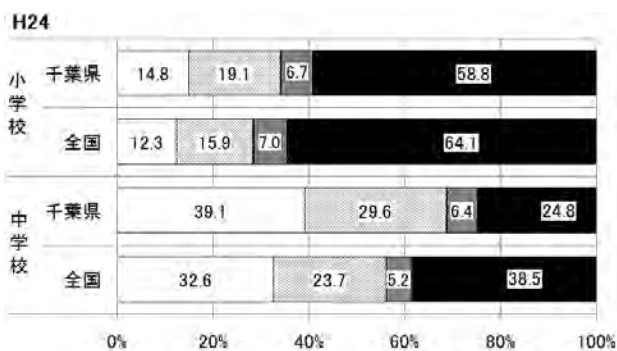


【携帯電話】

- 携帯電話を持っている児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 携帯電話を持っている児童生徒のうち、携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒の割合を計算すると、全国と同程度である。
- インターネット（携帯電話を使ったインターネット含む）を利用する児童生徒の割合は全国と同程度で、中学校では全国と同様に急速な増加傾向が見られる。

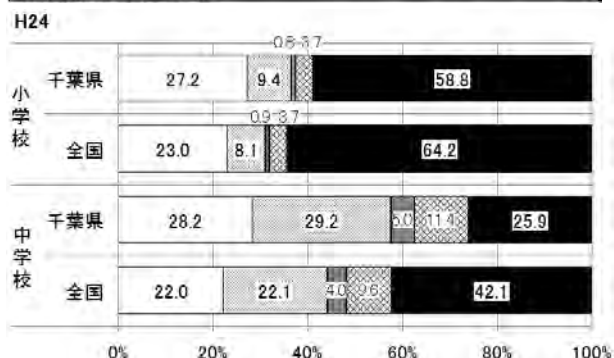
・携帯電話で通話やメールをしていますか

□ほぼ毎日している □ときどきしている
 ■全く、または、ほとんどしていない ■携帯電話を持っていない



・携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

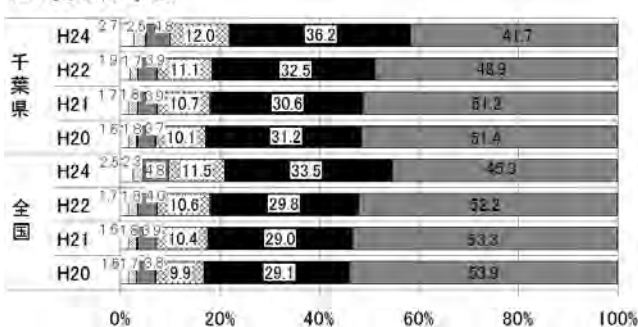
□きちんと守っている □だいたい守っている
 ■あまり守っていない ■守っていない、または、約束はない
 ■携帯電話を持っていない



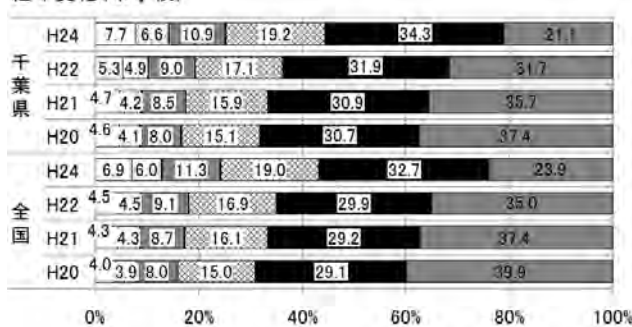
・普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、インターネット（携帯電話を使ったインターネット含む）をしますか

□4時間以上 □3時間以上、4時間より少ない
 ■2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない
 ■1時間より少ない ■全くしない

経年変化(小学校)



経年変化(中学校)



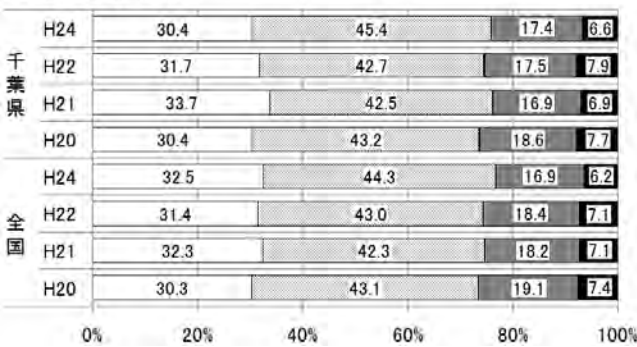
【自尊意識】

- 「自分にはよいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合に、増加傾向が見られる。
特に、平成22年度から平成24年度にかけて大きく増加している。

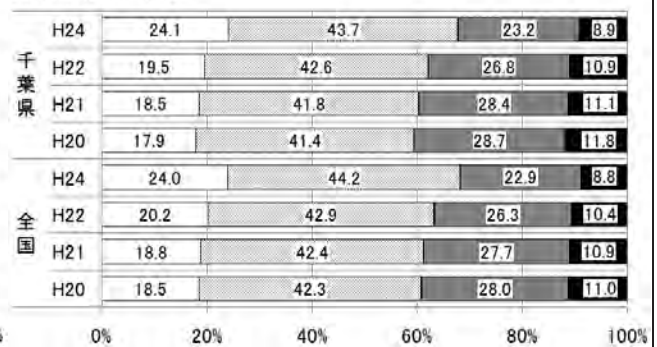
・自分にはよいところがあると思いますか

□ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

経年変化(小学校)



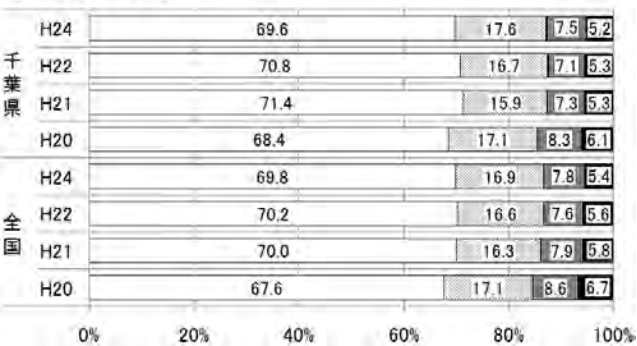
経年変化(中学校)



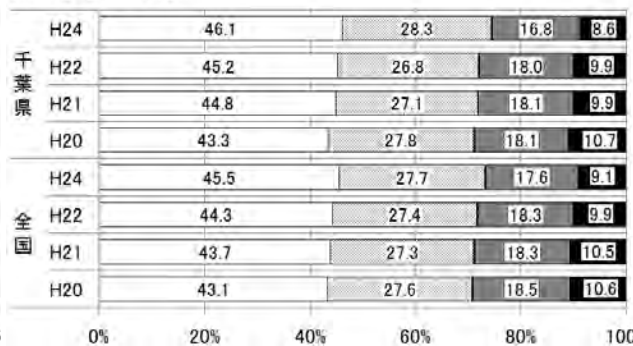
・将来の夢や目標を持っていますか

□ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

経年変化(小学校)



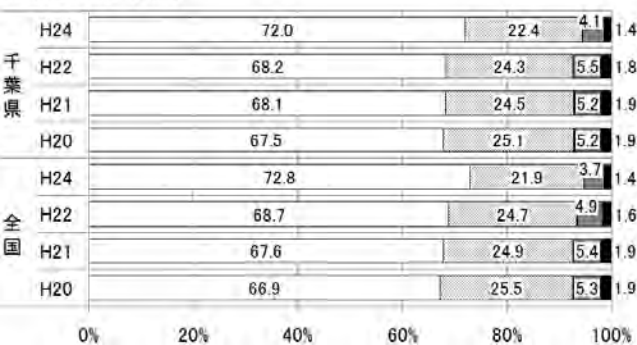
経年変化(中学校)



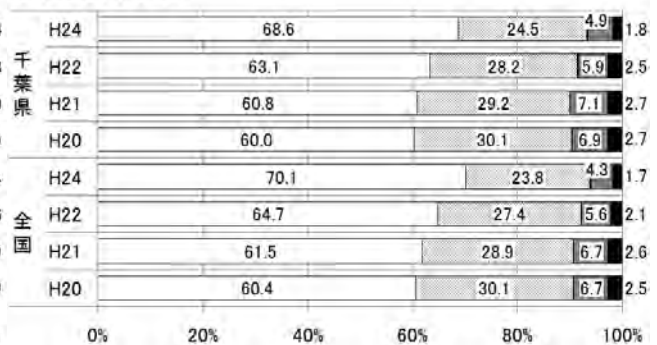
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか

□ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

経年変化(小学校)



経年変化(中学校)



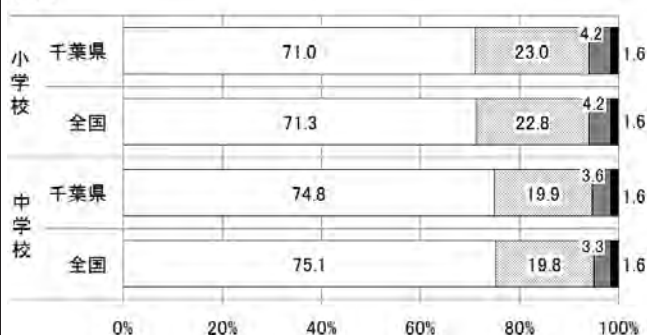
【他者意識】

- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」に対して、当てはまると回答した児童生徒の割合は、全国と比べてほぼ同程度である。中学校においては、平成22年度から平成24年度にかけて大きく増加している。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、当てはまると回答した児童生徒の割合は全国より低い、中学校においては年々増加傾向が見られる。

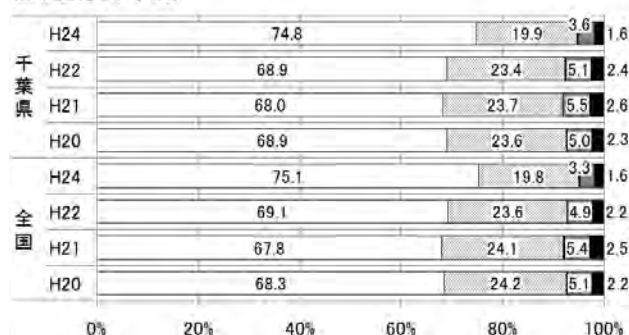
・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

□ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

H24



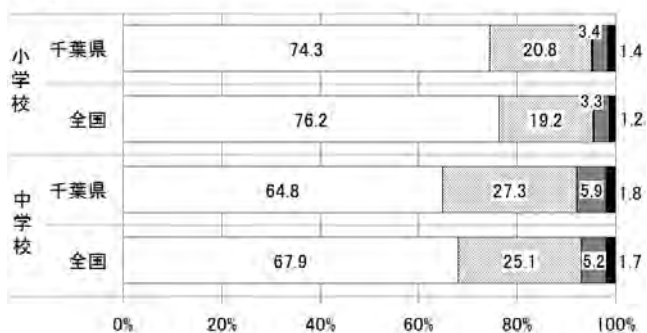
経年変化(中学校)



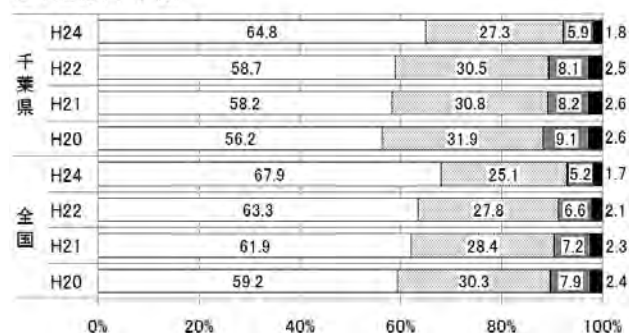
・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

□ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

H24



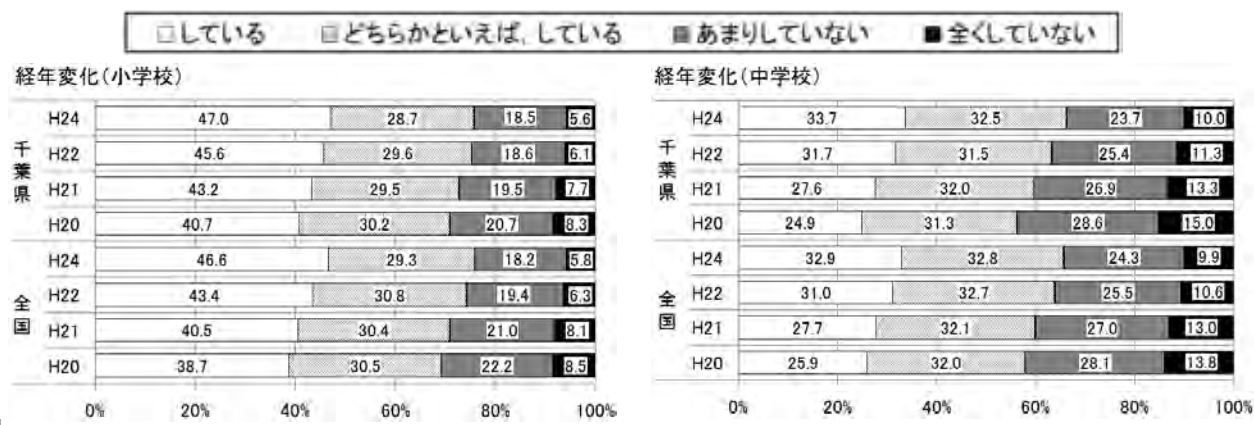
経年変化(中学校)



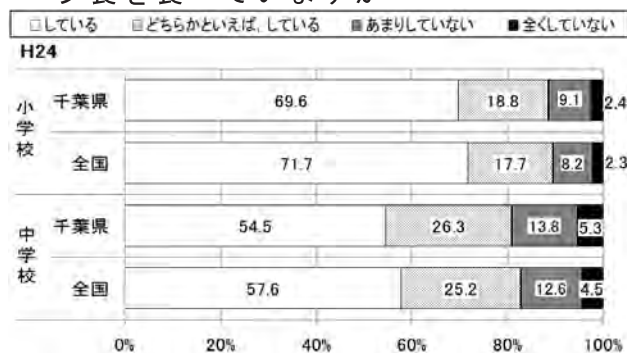
【家庭でのコミュニケーション】

- 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国と同程度であり、年々増加傾向が見られる。また、肯定的な回答をした児童生徒ほど正答率が高い傾向にある。
- 「家の人と一緒に夕食を食べていますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国より若干低い。
- 「家の手伝いをしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では全国よりやや高く、中学校では同程度である。また、どちらも増加傾向が見られる。

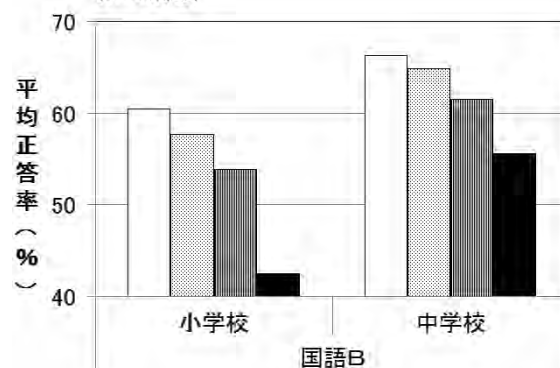
・家の人と学校での出来事について話をしていますか



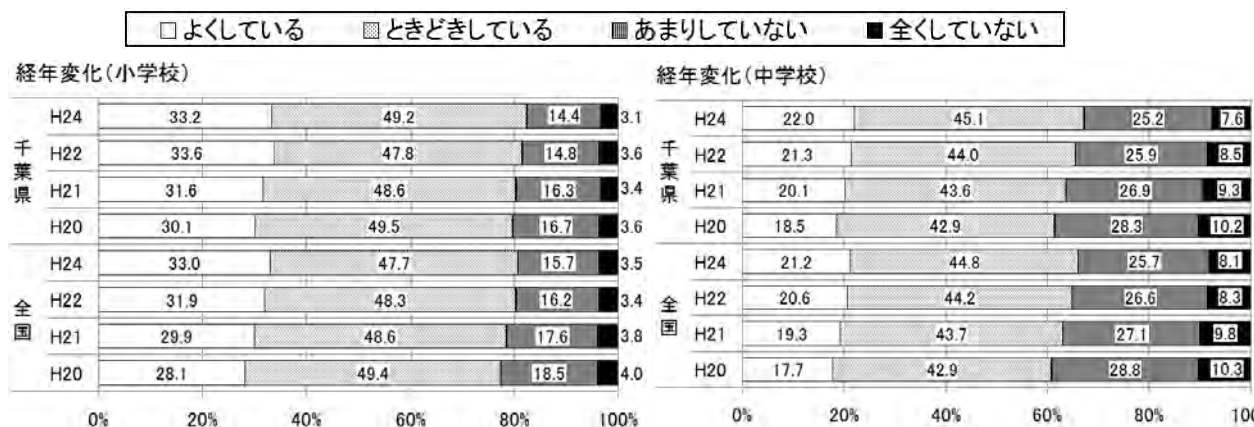
・普段（月～金曜日）、家の人と一緒に夕食を食べていますか



クロス集計



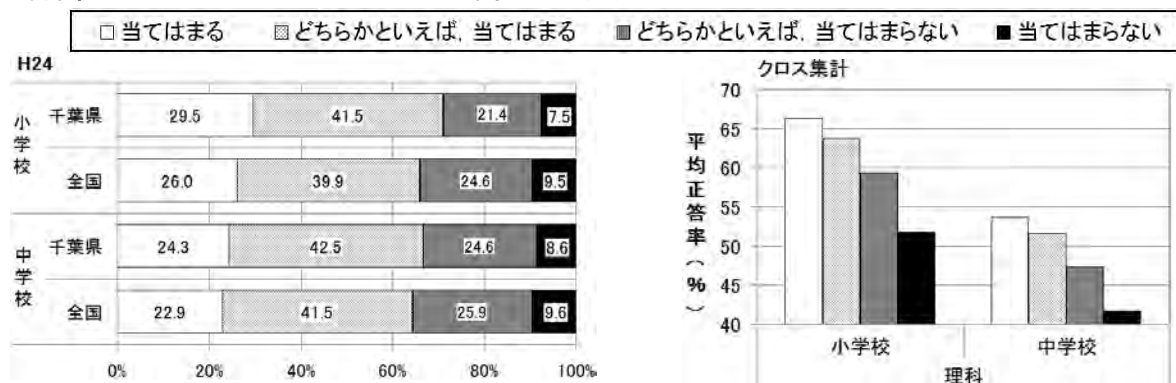
・家の手伝いをしていますか



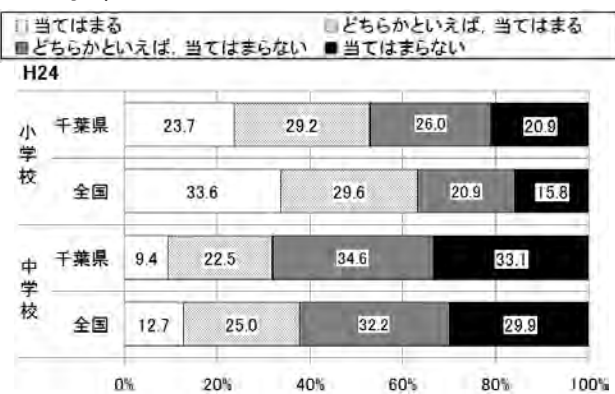
【社会に対する興味・関心】

- 「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国と比べて高い。また、全ての教科において、肯定的な回答をした児童生徒ほど正答率が高い。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国と比べて低い。「近所の人に会ったときにあいさつをしますか」に対して肯定的な回答をした児童生徒は、全国と比べて同程度である。
- 新規項目の「学校や塾の先生や家の人以外の地域の大人と一緒に遊んだり、勉強を教えてもらったりすることがありますか」「年上や年下の友達と一緒に遊んだり勉強したりすることがありますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国と同程度である。

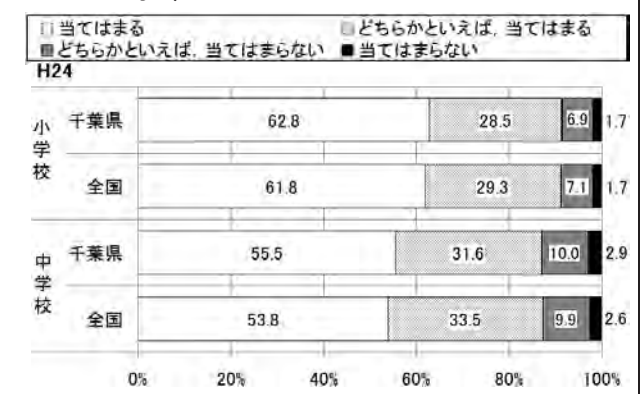
・新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



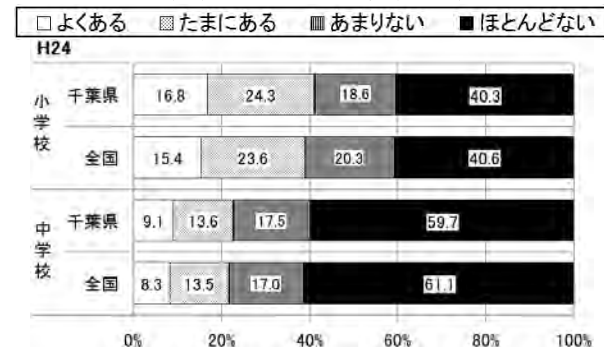
・今住んでいる地域の行事に参加していますか



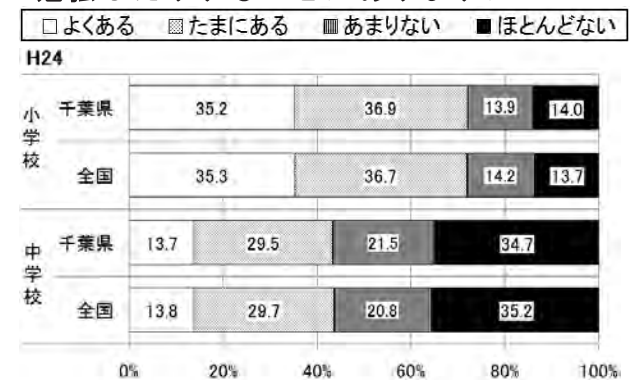
・近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか



・学校や塾の先生や家の人以外の地域の大人と一緒に遊んだり、勉強を教えてもらったりすることがありますか



・年上や年下の友達と一緒に遊んだり勉強したりすることがありますか



3.2.2 学校質問紙

学校質問紙調査は、「学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する内容」について、抽出対象校に対して行った調査である。 ※グラフの数値は%

この分析については回答割合により、「良好」「低い」「著しく低い」の語句を使用し、次のように定義している。

良好・・・「そのとおり」「どちらかといえばそう思う」割合の合計が80%をこえる場合

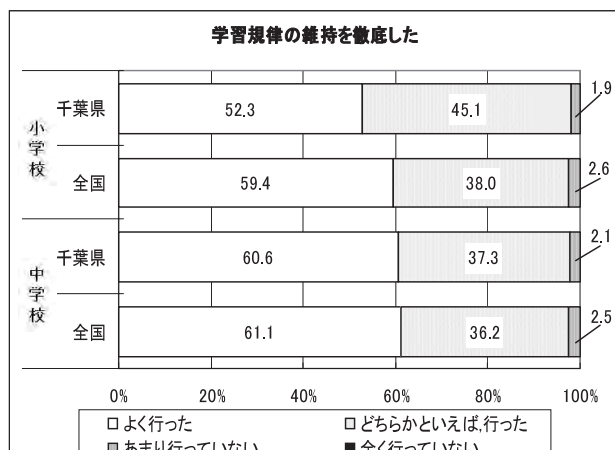
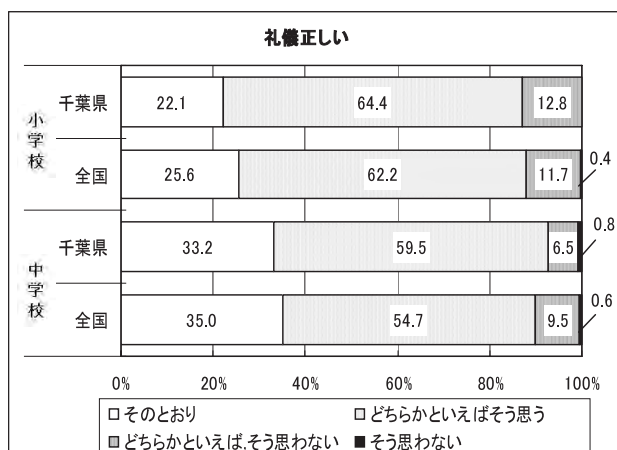
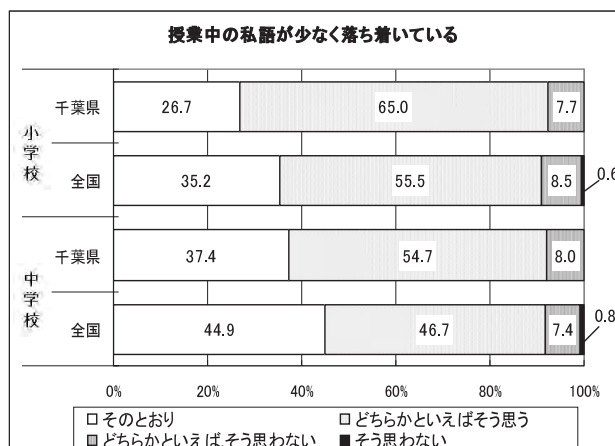
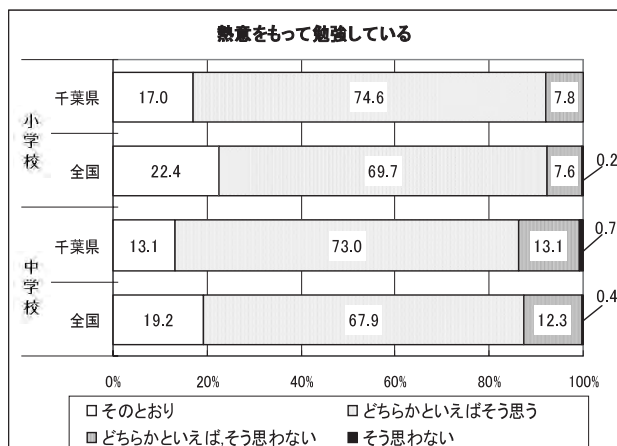
低い・・・「そのとおり」「どちらかといえばそう思う」割合の合計が全国と比べて5ポイント以上低い場合

著しく低い・・・「そのとおり」「どちらかといえばそう思う」割合の合計が全国と比べて10ポイント以上低い場合

【学習態度等】

○次の質問については、小中学校ともに良好である。

- ・熱意をもって、勉強している。
- ・授業中の私語が少なく、落ち着いている。
- ・礼儀正しい。
- ・学習規律の維持を徹底した。

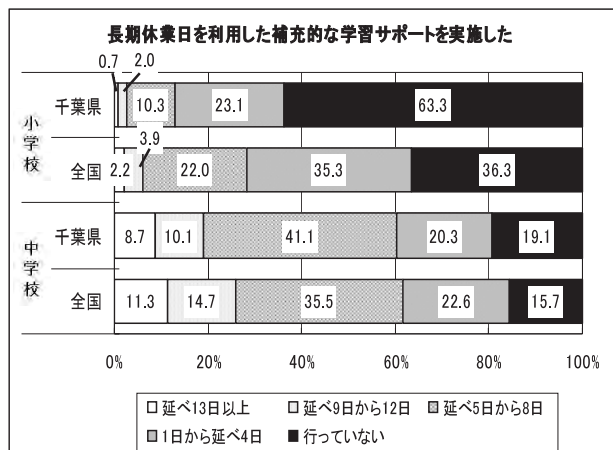
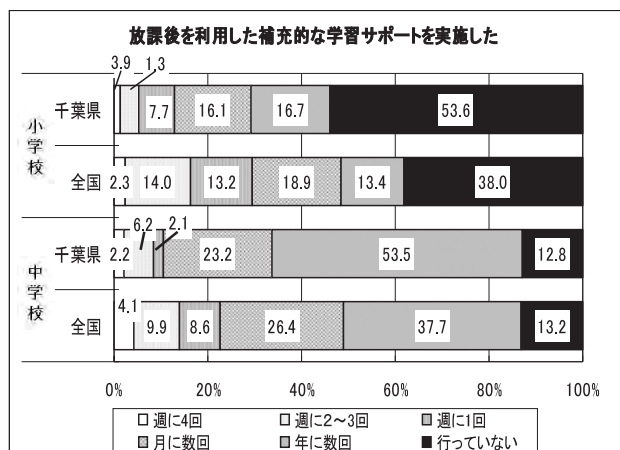
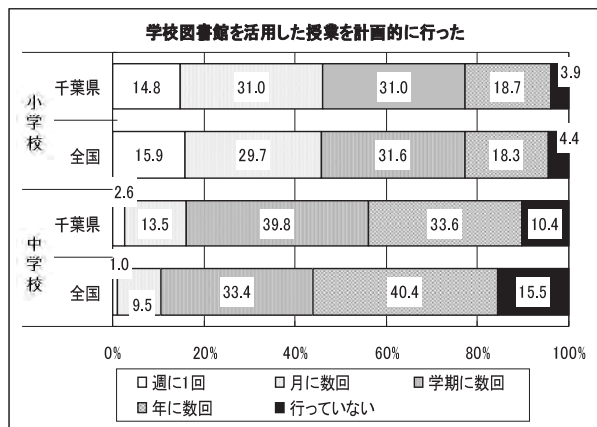
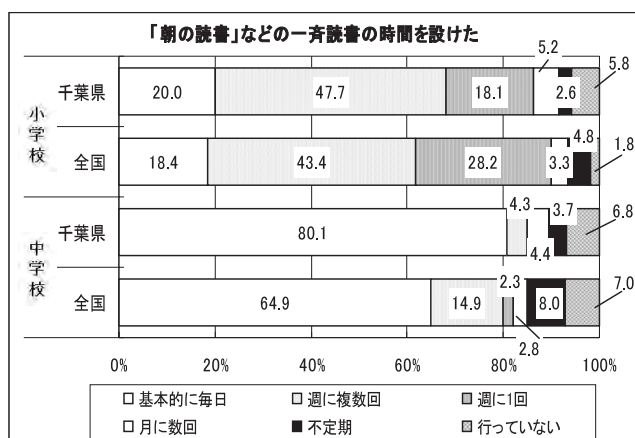


【学力向上に向けた取組等】

- 次の質問については、小中学校ともに良好である。
 - ・ 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けた
 - ・ 学校図書館を利用した授業を計画的に行った
 - 次の質問については、小中学校ともに全国平均と比べて著しく低い。
 - ・ 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した
 - ・ 長期休業を利用した補充的な学習サポートを実施した
- ※土曜日を利用した学習サポートについては、全国平均並み
- 「朝の読書」及び学校図書館の授業への活用について、中学校では、全国と比べて高い。このことから、中学校では読書活動を積極的に学校教育に取り入れていることが分かる。

◇ 補充的な学習のサポートについては、中学校では放課後の学習サポートで、月ごとの実施割合を見ると全国と比べて15ポイント以上低い。小学校では、放課後及び長期休業中ともに学習サポートを一切行っていない割合が全国と比べて15ポイント以上高い。

これらのことから、基礎的・基本的な知識・技能の定着のために、補充のための個別のサポートを充実させていくことが今後の課題である。



【習熟度別少人数指導】

平成24年度結果から

○次の質問については、全国平均と比べて低い。

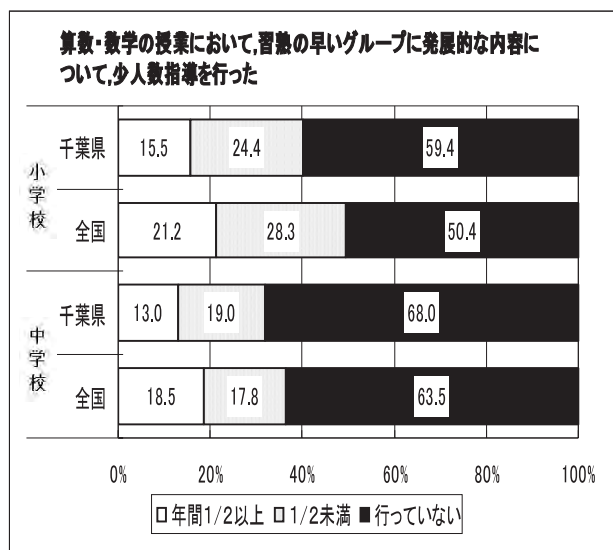
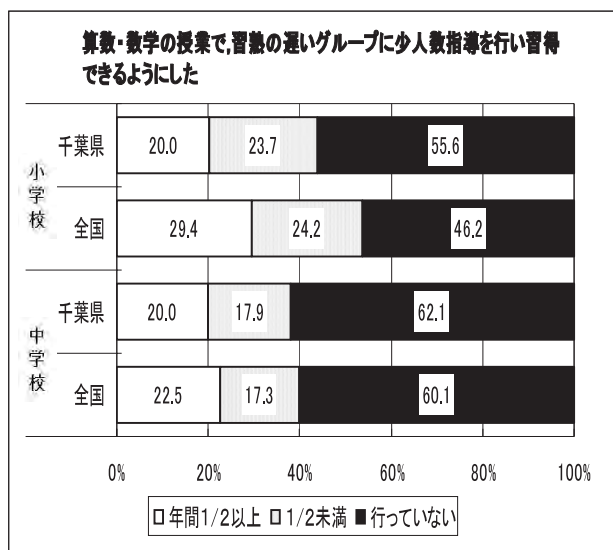
- ・算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習得できるようにした
- ・算数・数学の授業において、習熟の早いグループに発展的な内容について少人数指導を行った

経年変化から

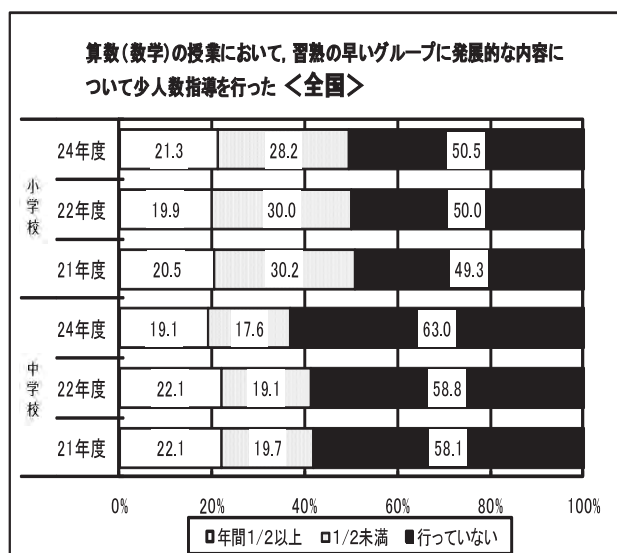
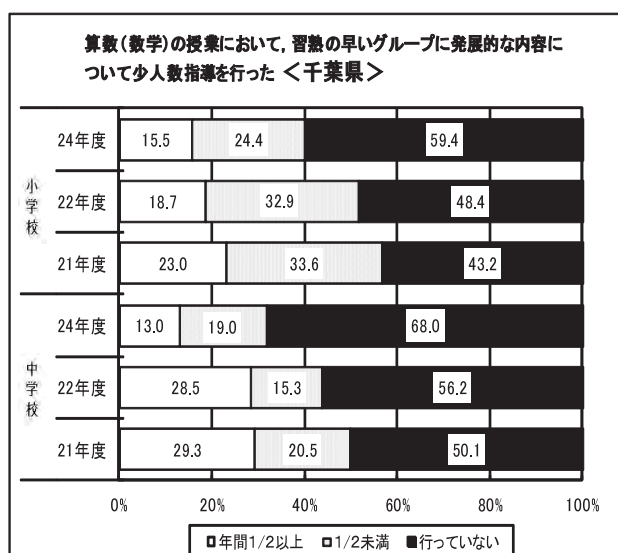
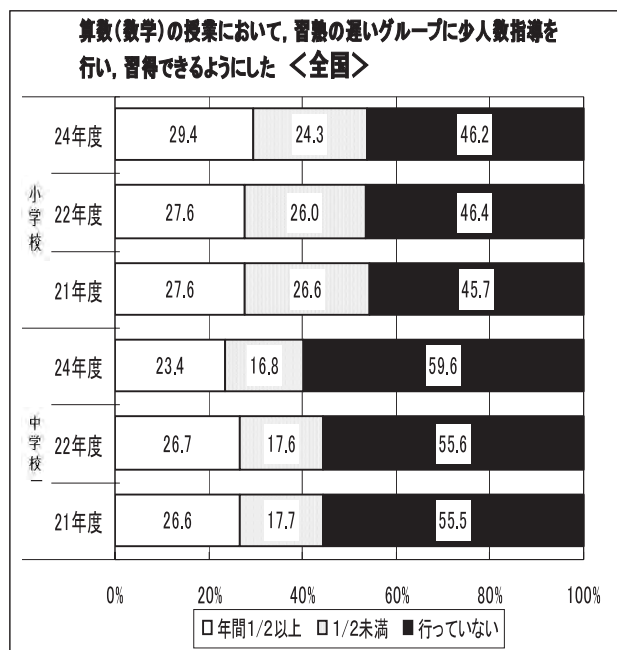
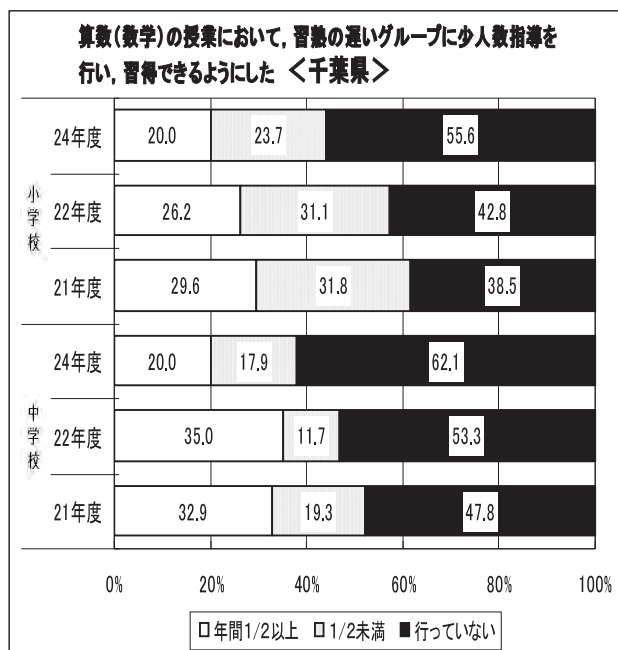
○算数（数学）において、少人数指導を行っている学校の割合が、小・中学校ともに年々低下傾向にある。

◇24年度の結果から、千葉県は全国と比べて習熟の早いグループ、遅いグループともに少人数指導を行ってる学校の割合が低い。経年変化で見た場合でも、全国の変化と比べて、千葉県では、大きな減少傾向にあり、少人数指導を行っていない学校の割合が増えている。21年度は、習熟の遅いグループ、早いグループともに、千葉県が全国を上回っていたが、22年度には、その差が縮まり、24年度には、千葉県が下回る結果となっている。

これらのことから、習熟度別少人数指導をどのように考えるかが千葉県の課題である。



経年変化



【家庭学習・家庭との連携】

平成24年度結果から

- 次の質問については、全国平均と比べて低い。
 - ・ 教科の指導として宿題を与えた
 - ・ 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

経年変化から

- 小学校では、90%以上の学校が宿題を出していて良好であり、21年度から大きく変化はしていない。しかし、宿題について教職員で共通理解を図った学校の割合は、21年度から徐々に増加してきてはいるが、70%台にとどまっている。

- 中学校では、宿題を出している学校は80%台と良好である。しかし、宿題の「家庭への働きかけ」や「教職員の共通理解」については、21年度から徐々に増加してきてはいるが、70%台にとどまっている。

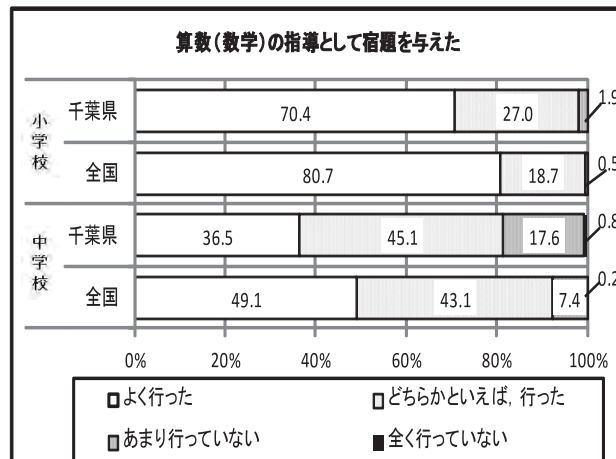
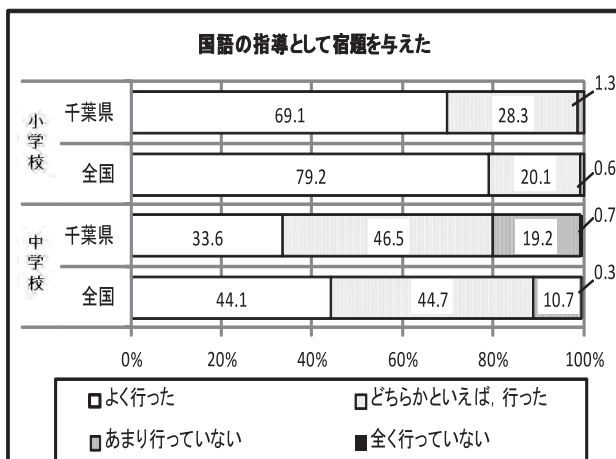
◇ 家庭学習の充実のためには、次の取組が必要である。

- ・ 学校は家庭学習について、教職員で共通理解を図り、児童生徒の実態に合わせ計画的に進める。
- ・ 家庭学習の実施については、学校と家庭が連絡を取り合い、連携して取り組む。

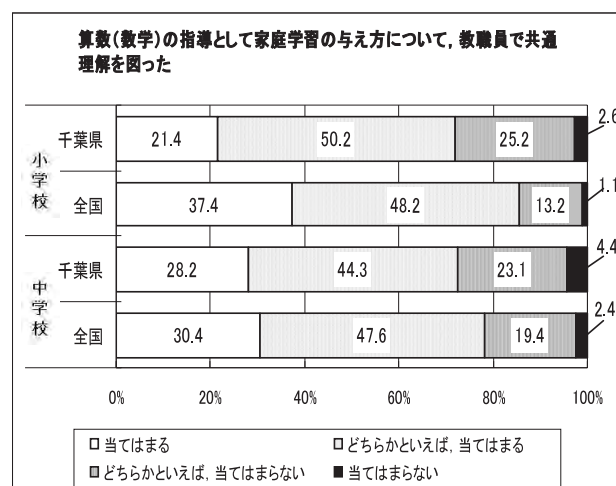
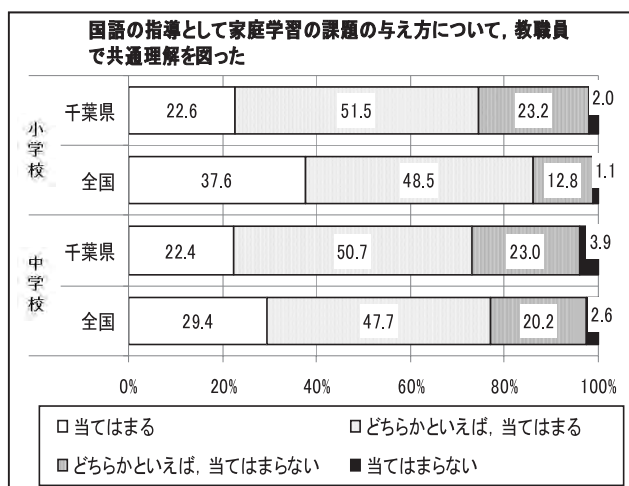
※ 千葉県教育委員会では、小学校の保護者向けに家庭学習を促進するためのリーフレット（低学年・中学年・高学年向け）や家庭学習の具体的な課題（国語・社会・算数・理科）をホームページに掲載している（79ページ参照）。

平成24年度結果

○ 宿題を与えた

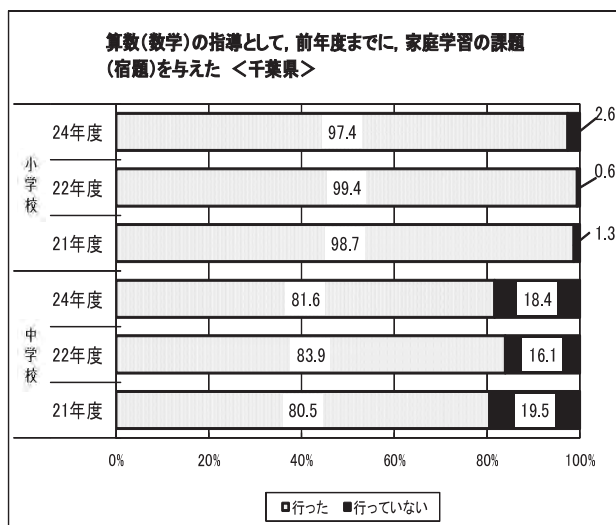
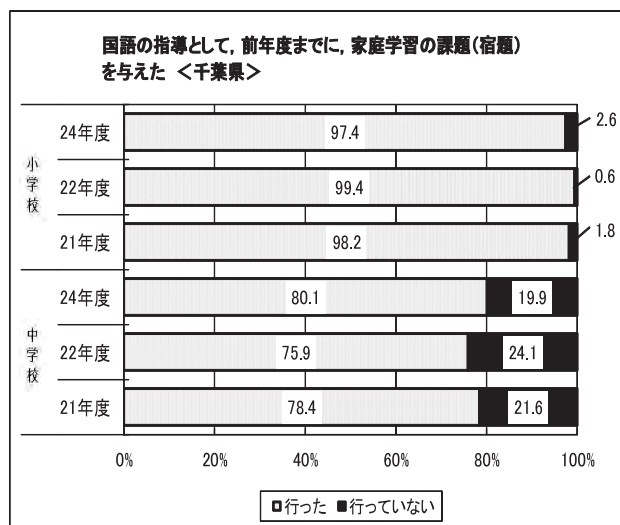


○ 宿題について教職員で共通理解を図った

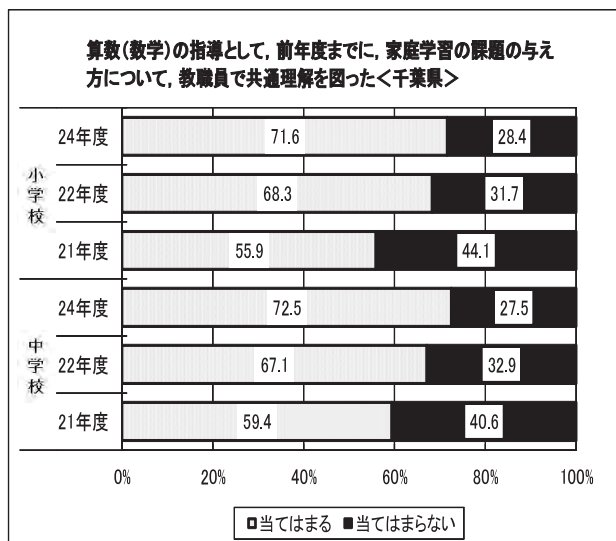
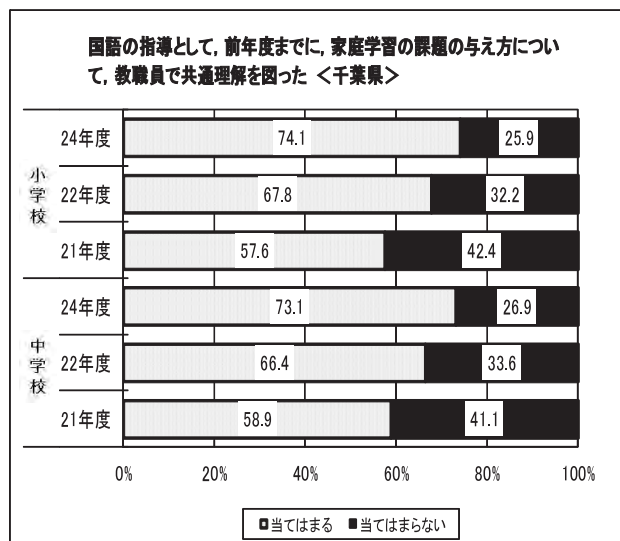


経年変化

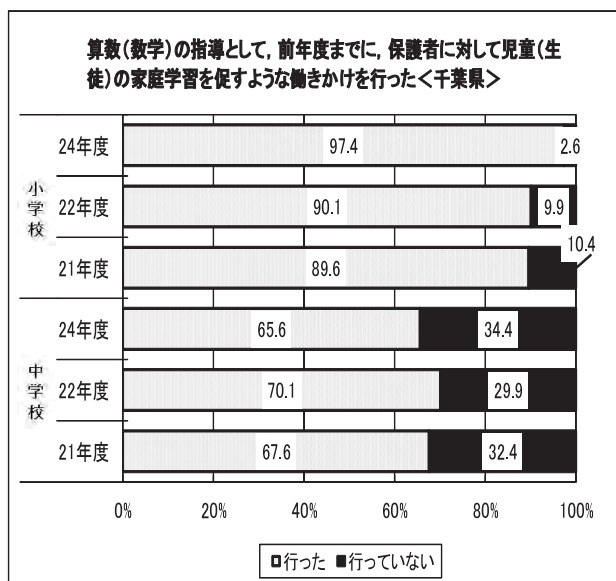
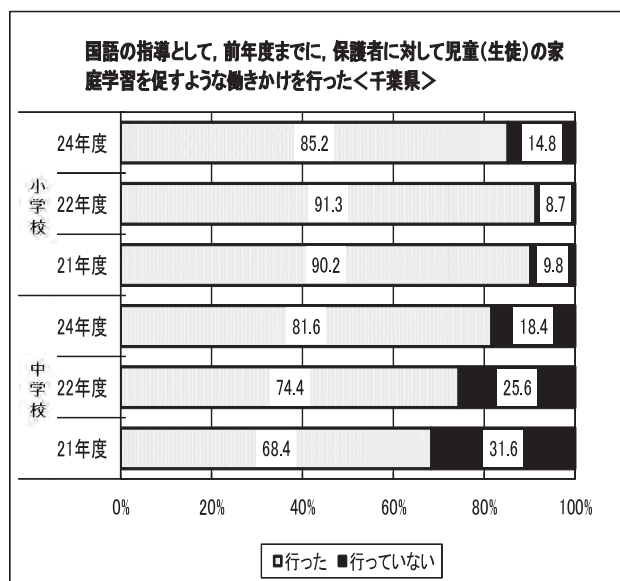
○宿題を与えた



○宿題について教職員で共通理解を図った

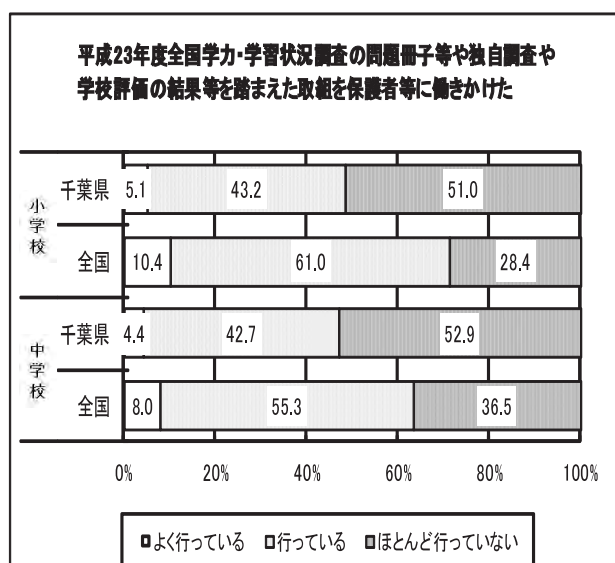
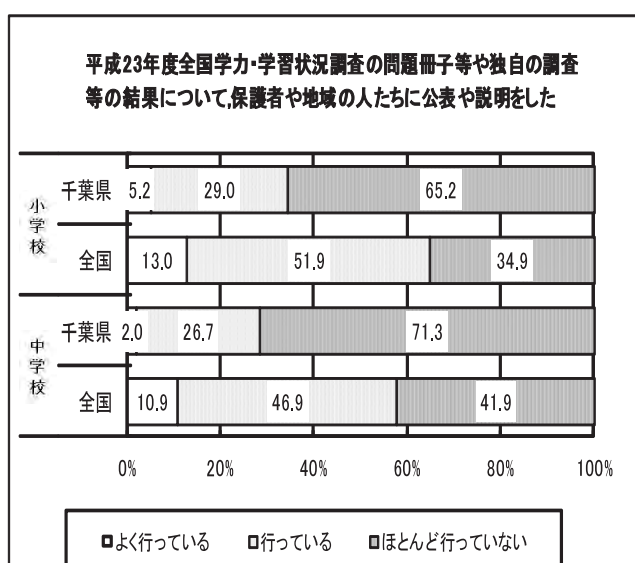
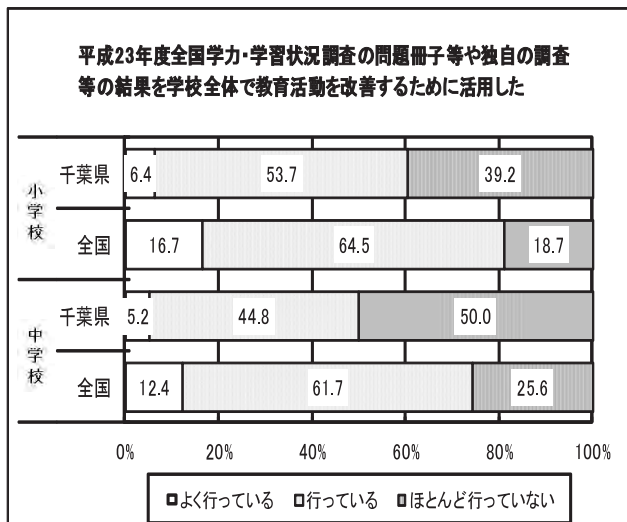
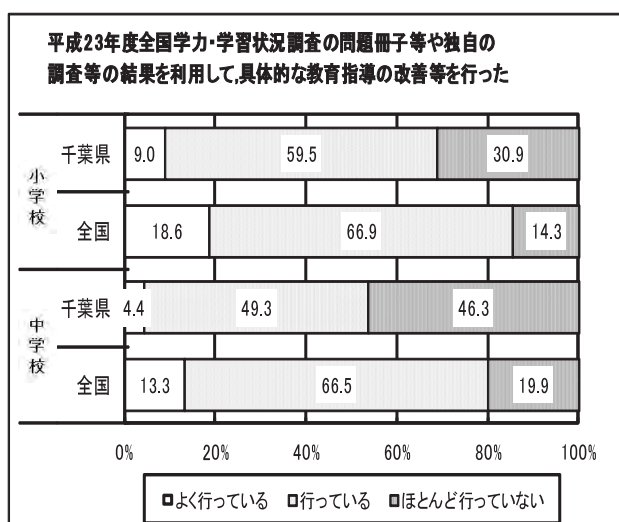


○保護者に対して、働きかけを行った



【調査結果の活用】

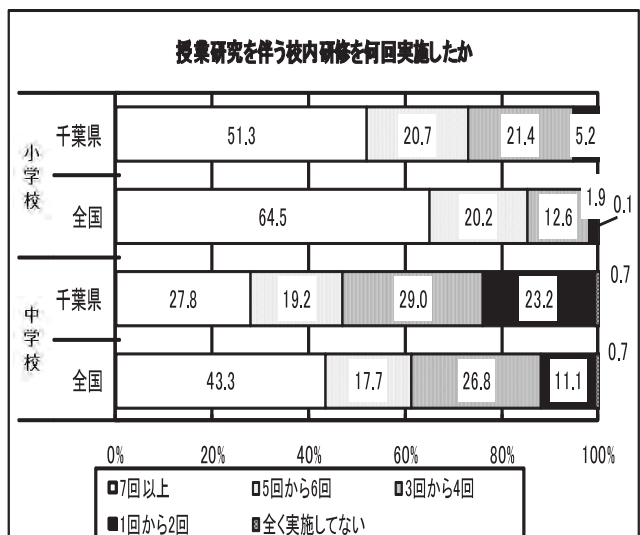
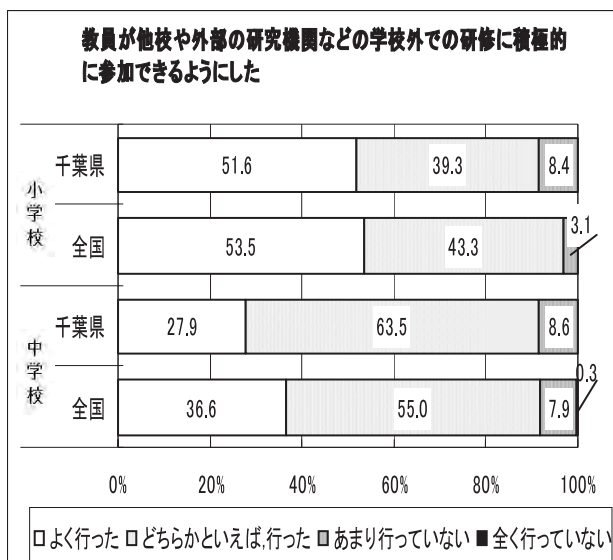
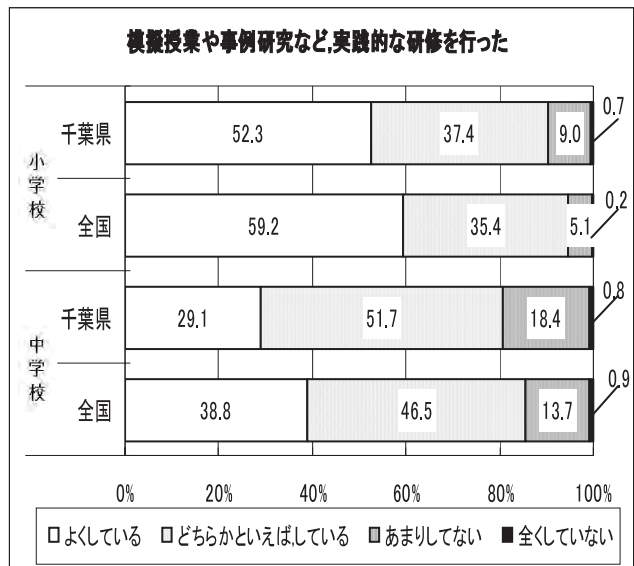
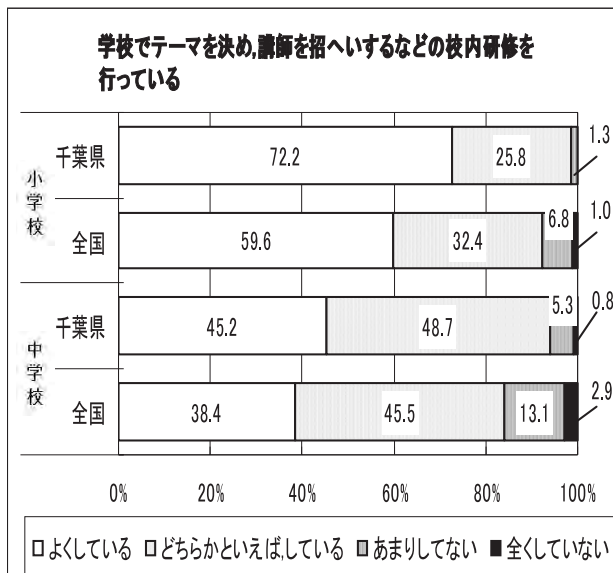
- 次の質問については、全国平均と比べて低い。
 - ・ 平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し具体的な教育指導の改善等を行った
 - ・ 平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用した
 - ・ 平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果について保護者や地域の人たちに公表や説明をした
 - ・ 平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査や学校評価の結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけた
- 全国学力・学習状況調査の希望利用については、全国平均と比べて著しく低い。
 なお、千葉県の希望利用の参加率は23年度が55.9%，24年度が52.1%である。



【教員研修】

- 次の質問については、小中学校ともに良好であった。
 - ・ 学校でテーマを決め、講師を招へいするなどの校内研修を行っている
- 次の質問については、全国平均と比べて低い。
 - ・ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている
 - ・ 教員が、他校や外部の研究機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにした
 - ・ 授業研究を伴う校内研修を前年度、7回以上実施した

◇ 「模擬授業や事例研究などの実践的な研修」や「授業研究を伴う研修」を積極的に行う学校の割合が低い。教師の授業力向上をめざすためには、教員研修を模擬授業、事例研究、授業研究などの実践的な研修にシフトしていくことが、教員研修についての学校運営の課題である。



【保育園や幼稚園・小学校・中学校相互の連携】

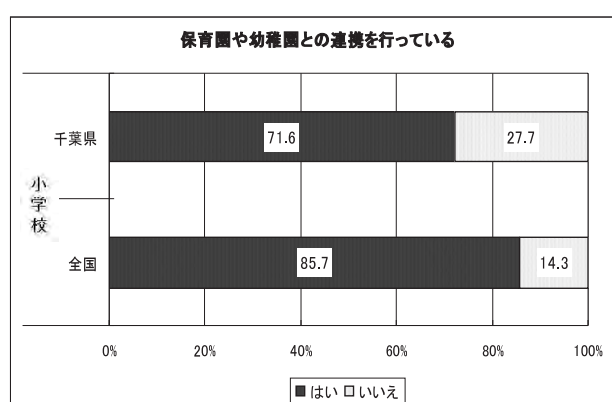
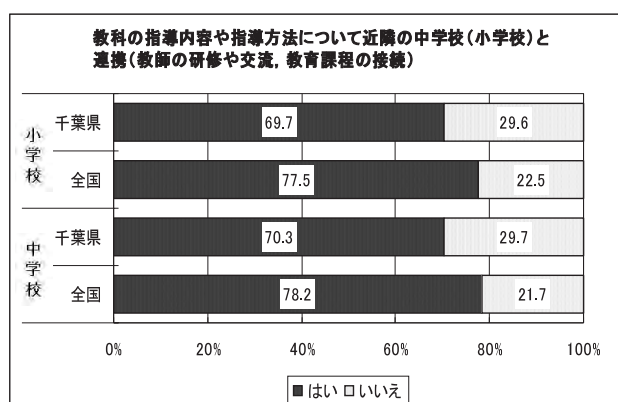
平成24年度結果から

- 次の質問については、全国平均と比べて低い。
 - ・ 教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校（小学校）と連携（教師の合同研修，教師の交流，教育課程の接続など）を行っている
- 次の質問については、全国平均と比べて著しく低い。
 - ・ 保育園や幼稚園との連携（保育園や幼稚園との合同研修，保育園や幼稚園の幼児と児童の交流など）を行っている

全国及び他都県との比較から

異校種間の連携は、学区の状況によって実態が大きく変わる場合がある。そのため、関東近県で大都市をかかえる都道府県（東京都・神奈川県・埼玉県）、全国学力・学習状況調査の上位で、学校数が少ない県（秋田県・福井県・石川県）と比較した。

◇ 全国学力・学習状況調査の結果の上位県は学校数が少なく、異校種間連携は秋田県が90%を超える割合を示すなど、全国を大きく上回っている。一方、東京都，神奈川県，埼玉県など千葉県と同様に大都市をかかえる都県においても、異校種間連携を行う学校の割合が千葉県を大きく上回っており、小学校と中学校の連携に力を入れていくことが今後の課題である。



- 全国及び他都県との比較（近隣の中学校（小学校）との連携に対する肯定的な意見の割合）

